

15. 栃木県民における頸動脈最大内中膜複合体厚の検討

¹⁾ 超音波センター, ²⁾ 内科学 (神経),
³⁾ 第二外科学

竹川英宏^{1,2)}, 今野佐智代¹⁾, 江尻夏樹¹⁾,
川又美咲¹⁾, 高瀬直敏¹⁾, 吉原明美¹⁾,
永田 仁^{1,3)}, 岡村 稔²⁾, 岩崎晶夫²⁾,
西平崇人²⁾, 平田幸一²⁾, 高田悦雄¹⁾

【目的】頸動脈の内中膜複合体厚 (IMT) の肥厚は血管障害発症との関連が知られている。脳卒中および心疾患の死亡率が高い地域でのIMT調査は、予防の観点から重要である。

【対象と方法】栃木県内で開催された「健康祭り」で頸動脈エコー検診を受けた連続862例のうち、事前アンケート調査に不備を認めた例を除外した840例 (平均年齢62.6歳, 男性233名) を対象とした。IMTの評価はリニア型探触子を用い、座位で左右の総頸動脈を観察し、最大IMT (IMT-Cmax) を計測した。事前アンケートは年齢、性別、喫煙、連日飲酒、高血圧、脂質異常症、糖尿病、心臓疾患または不整脈、脳卒中の既往につき自己記入式で行なった。

【結果】危険因子を持たない正常例は211例であり、そのIMT-Cmaxは性別に差がなく ($p=0.97$)、年齢と有意な正の相関が得られた ($p<0.001$, $r=0.634$)。対象全例における単変量解析では、連日飲酒および脂質異常症はIMT-Cmax >1.0 mm と関連がなかった。一方、多変量解析 (年齢、性別、脳卒中既往で補正) では、喫煙 ($p<0.001$, オッズ比3.9) および高血圧 ($p<0.01$, 1.8) のみかIMT-Cmax >1.0 mm と関連していた。

【考察】IMTは年齢、脂質異常症や高血圧、糖尿病、喫煙などの血管障害危険因子の合併で肥厚する。本検討においても年齢はIMT肥厚と有意な相関を示した。しかし、危険因子では喫煙と高血圧のみが関連していた。スタチン製剤など一部の危険因子治療薬はIMTの退縮効果が知られている。われわれは自己記入式アンケートであり、内服薬の調査は行っていないため、他の危険因子がIMT肥厚の要因とならなかった可能性がある。

【結論】栃木県民においてIMT-Cmax肥厚に関する要因は喫煙と高血圧が重要である。

16. Prader-Willi 症候群における行動症状の性差

¹⁾ 越谷病院 ところの診療科, ²⁾ 越谷病院 小児科, ³⁾ 精神神経科学, ⁴⁾ 中川の郷療育センター, ⁵⁾ 国立成育医療研究センター

儀藤政夫¹⁾, 井原 裕¹⁾, 尾形広行¹⁾,
佐山真之¹⁾, 村上信行²⁾, 永井敏郎⁴⁾,
綾部匡之⁵⁾, 大戸佑二²⁾, 下田和孝³⁾

【目的】Prader-Willi 症候群 (以下PWS) は、遺伝疾患の内分泌・神経・奇形症候群である。当研究ではPWS患者における行動症状の性差の検討を目的とした。

【方法】獨協医科大学越谷病院でPWSの診断を受けた患者82例を対象に①食事関連問題質問紙 (FRPQ), ②異常行動チェックリスト日本語版 (ABC-J), ③小児ルーチン行動チェックリスト (CRI), ④広汎性発達障害評定尺度 (PARS), ⑤注意欠陥・多動性尺度 (ADHD-RS) を施行した。これらの結果を男女および遺伝子型 (欠失: DEL, 片親性ダイソミー: UPD) の群に分け、統計学的検定を行った。

【結果】今回施行した尺度において男女間で有意差を認めたのは、FRPQのみであった。これはFRPQ-P: 食べ物へのこだわり, -S: 満腹感のなさ, -N: 様々な困った行動の下位項目がある。FRPQ (total, 下位項目P, S, N) について性別と遺伝子型の交互作用は有意であり単純主効果検定を行い以下の結果を得た。

① FRPQ total において男性・DELの者は女性・DELの者よりスコアが高く、男性・UPDの者は女性・UPDの者よりスコアが低い。

② FRPQ-S において男性・DELの者は女性・DELの者よりスコアが高い。

【考察】当研究は、PWS患者の行動症状における性差を広く検討した初めての試みであり5つの行動評価尺度を用いて検討した。多くの行動では統計学的に有意な性差を認めないが、食事関連行動において男性・DELの者が女性・DELの者より行動異常が著しいことが示された。一方で男性・UPDの者は女性・UPDの者より行動異常は軽度である。この結果は、サンプル数の少なさを考慮し慎重に解釈すべきである。今後性差を検討するにあたり、内分泌的要因も考慮し評価すべきである。

【結論】PWS患者の行動症状は多くは性差を認めないが、食行動において男性・DELの者より異常行動が著しい一方、男性・UPDの者の異常度はより軽度であった。食行動に関して男性のDEL患者は特に異常行動に注意すべきであると考えられる。